



ウォーキングイベントの復活に向けて打ち合わせをする関係者

松江城天守（松江市殿町）の国宝化を機に、築城した戦国大名、堀尾吉晴・忠氏親子ゆかりの道  
を巡るウォーキングイベントを復活させようと、松江、安来両市の公民館が連携して準備を進めて  
いる。11月28日の開催を目指し、両市のほか、吉晴の出身地、愛知県大口町の関係者にも参加を呼  
び掛ける計画だ。

（佐々木一全）

# 堀尾親子功績 たどって体感

## 安来→松江3コース

## ウォーキングイベント 11月に復活開催

### 松江城国宝化で 両市公民館連携

ウォーキングイベントは「松江開府の径（まが）ウォーク」と銘打ち、松江の官民でつくる松江開府400年祭推進協議会が2007～11年に開催。出雲国を治めることになった堀尾親子が、富田城（安来市広瀬町富田）から松江へ城を移した史実を体感しようと、安来市広瀬町から松江市までの道のりを歩いた。

イベント復活は、松江市の城西公民館と、松江ウォーキング協会（吉岡利夫会長）の関係者が発案。同市の城北、城東のほか、広瀬など安来市内の公民館で実行委員会をつくった。

道の駅・広瀬富田城（安来市広瀬町帳）を出発し、松江市八雲町との境にある駒返トンネル前までの7キロ、八雲立つ風土記の丘（松江市大庭町）までの16キロ、松江城までの25キロの3コースを想定。神魂神社（同）や白濁天満宮（松江市天神町）など、堀尾氏と関係の深い名所を巡るコースも検討する。

参加者募集は10月に開始。沿道での飲食物の提供を計画しており、ボランティアスタッフも募る。実行委員長を務める森泰城西公民館長（73）は「多くの人が松江の歴史について関心を高める催しにしたい」と意気込んでいる。